



多角的な可視化・分析を可能とする研究基盤IRシステムを構築 持続的な研究成果創出、EBPMマネジメントサイクルの確立を目指す

北海道大学 技術支援・設備共用コアステーション CoSMOS



北海道大学の将来を担う研究基盤IRを強化

北海道大学は、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」というビジョンを掲げている。「優れた研究ガバナンスを誇るモデル大学」を目標の一つとしており、研究機器の戦略的な活用を目的とするコアファシリティ事業にもいち早く取り組んできた。この取り組みを支える「GFC（グローバル ファシリティ センター）」および「URAステーション」は緊密に連携し、研究基盤IR（Institutional Research）を強化すべくDr.SumとMotionBoardを基盤とするシステム構築を推進している。これを発展させ、研究基盤IRシステムをコアとしたEBPM（Evidence-based Policy Making）のマネジメントサイクルの確立を目指している。

創成研究機構グローバルファシリティセンター 副センター長 佐々木 隆太氏、オープンファシリティ部門 部門長 吉沢 友和氏、機器分析受託部門 部門 長岡 征子氏
大学力強化推進本部 URA ステーション 主任 URA 加藤 真樹氏、URA 阿部 義之氏

Summary

概要



背景・課題

- GFCのオープンファシリティ事業で蓄積した研究機器・共用に関するデータの活用が不十分
- 研究基盤（研究機器）と研究活動の関連性を可視化する指標は論文数や被引用数、科研費の獲得状況など多岐にわたり、全体の把握が困難
- BIツールを活用し、データを集約・可視化することでエビデンスに基づく戦略策定を行いたいのが自力でのシステム構築は困難であり、コンサルティングを含めた効率的な導入を進めたかった



導入のポイント

- オープンファシリティ事業が対象とする先端機器全体を俯瞰してそれぞれの利用実績を把握
- 各担当部署がExcel等で個別に管理していた論文業績、科研費情報、受託/共同研究費情報などを集約
- ウイングアークが導入前のコンサルティングからPoC、システム構築、活用まで一貫してサポート



効果

- 研究基盤IRシステムをコアとしたEBPM（Evidence-based Policy Making）のマネジメントサイクルを確立
- Excelで管理していた戦略策定に必要な指標を集約し、研究基盤IRに活用できる仕組みを構築

導入製品・サービス

Dr.Sum

現場がデータ活用するための「フロントデータベース」。数億億件の大容量データに対応するデータベースエンジンと、専門知識を必要としないExcel・Webブラウザのインターフェイスで、見たいレポートを瞬時に取得。

MotionBoard

ビジネスのあらゆるデータを可視化するBIダッシュボード。データを必要なタチで、シンプルに可視化。



Dr. Sum

CASE STUDY

持続的な研究成果の創出、EBPMのマネジメントサイクル確立を目指す

さまざまな先端機器の共用化を進めている「GFC(グローバル ファシリティ センター)」と、研究力強化に向けた戦略立案と実行を担う「URAステーション」は、北海道大学の研究の将来ビジョンの実現を支える両輪だ。両組織が共同で取り組んでいる課題のひとつに研究基盤IR(Institutional Research)の強化がある。IRとは、研究戦略や教育改革、社会貢献など、大学運営における戦略策定や意思決定をサポートするための情報収集や調査研究活動を指す。

一言で研究基盤IRの強化といっても容易ではない。研究基盤(研究機器)と研究活動の関連性を可視化する指標は論文数や被引用数、科研費の獲得状況などが多岐にわたり、全体の把握が困難だからだ。機器共用に関する詳細な情報を集約し、多角的な可視化や分析を可能とする研

究基盤IRシステムの構築が急務だったわけだ。

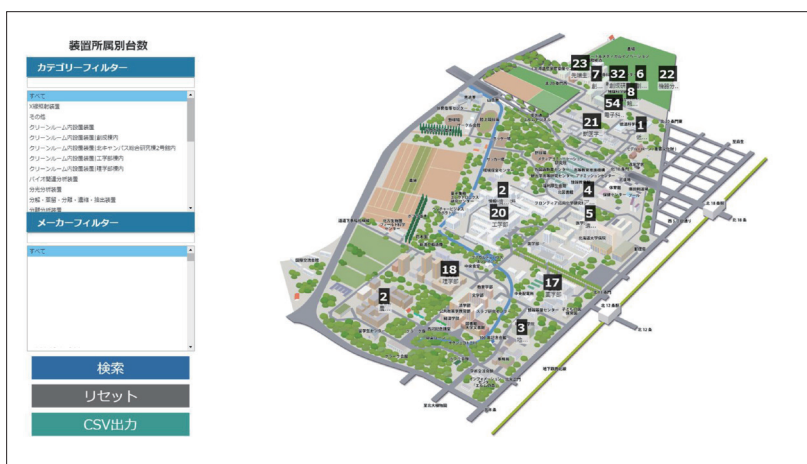
この課題解決のために注目したのが、ウイングアークのDr.SumとMotionBoardだった。ウイングアーク製品は、データの扱いも含め信頼できる国内のベンダーであり、なおかつ導入前のコンサルティングからPoC(概念実証)、システム構築、活用まで一貫したサポート体制があることが評価された。

すでに、いくつかのダッシュボードが作成され活用されており、今後はDr.Sumに学内のさまざまな基幹システムや周辺システムのデータも収集・蓄積し、自由度の高い集計、高

度なOLAP分析まで実行できる環境を整えていく計画だ。さらに、研究基盤IRシステムをコアとしたEBPM(Evidence-based Policy Making)のマネジメントサイクルの確立も視野に入れている。研究基盤IRシステムで精査したエビデンスをもとに設備高度化の投資戦略を立案し、これを踏まえて大学執行部が投資判断を行い、さらに機器共用機能強化プログラムや研究支援人材育成プログラムと連動させ、持続的な研究成果の創出と社会還元を支えるというものだ。北海道大学の継続的な変革は、まだ始まったばかりだ。



研究基盤BI TOPボード ※サンプルデータを使用しています



装置所属をキャンパスマップ上で可視化 ※サンプルデータを使用しています



北海道大学
技術支援・設備共用コアステーション
CoSMOS

北海道大学 技術支援・設備共用 コアステーション CoSMOS

創設 : 1876年(札幌農学校)
所在地 : 北海道札幌市
URL : <https://cosmos.gfc.hokudai.ac.jp>

北海道大学内の研究基盤に係るデータ収集と分析を行うIR機能を担うことで研究基盤マネジメントサイクルを確立する「機器共用機能強化プログラム」と、技術職員の全学的な組織化と人材育成体制の整備、活動のための財政的基盤を確立する「研究支援人材育成プログラム」を行う

サイト内でより詳しく
ご紹介しております。

[https://www.wingarc.com/
product/usecase/374.html](https://www.wingarc.com/product/usecase/374.html)

